

① ホンテラッセ長与の有効活用を

令和9年4月に開館予定の新図書館等複合施設「ホンテラッセ長与」は、単に健康診断を実施したり本を貸し出す施設ではなく、今後急速な人口減少が懸念される本町にとって、移住・定住の促進のためのにぎわい創出の拠点という役割が期待されている。そのためには、マルシェのようなイベントで一時的・単発的に人を集めるだけではなく、施設の設備・機能を最大限に活かし、まずは町民を中心とした日常的な利用者を増やして本町の生涯学習や社会活動を活発にし、年齢・性別・障害の有無・国籍などを問わずさまざまな人がつながる場所となることが重要だと考える。これを前提に、ホンテラッセ長与の開館に関連して、以下の質問を中心に聞く。

- (1) 3月定例会で可決・成立した長与町手話言語条例には、手話に対する理解促進や手話の普及を図るという町の責務が明記されている。条例を形骸化させないためにも、ホンテラッセ長与において、手話によるお話し会の実施や手話・字幕入り映像資料の充実を図るべきと考えるが、条例を踏まえた取り組みを何か計画しているか。
- (2) 健康センターとの合築のメリットとして、認知症およびその当事者・家族への理解を深める啓発や学びの場となり、講演会やサロンを実施するなど認知症バリアフリー社会の一端を担う施設となるべきと考えるがどうか。
- (3) 預金通帳のような台帳に借りた本を印字し記録していく「読書通帳」というシステムが国内300以上の公立図書館で導入されている。本を借りるモチベーションを上げ利用者を増やすために導入してはどうか。
- (4) 新図書館への移転のため現図書館が9月で閉館となるが、新図書館の開館まで、学習スペースがない状態となる。主に中高生の学習のために、代替場所を用意すべきではないか。

② 関係人口・交流人口の増加のために

去る3月に策定・公表された本町の第11次総合計画において、本町は令和12年度の目標人口を第10次総合計画のまま42,000人としているが、現実には本町の人口は減少傾向で、社人研の令和5年推計でも令和12年の本町の人口は約37,000人という厳しい推計が突き付けられており、さらに令和27年(2045年)には29,794人、令和47年(2065年)には19,947人と推計されている。

第11次総合計画において「訪れたい、住んでみたい魅力的なまちづくり」を戦略プロジェクトの一つに掲げている本町の人口減少対策としての関係人口・交流人口拡大のための具体策と、シティプロモーションとシビックプライドについての考え方を以下を中心に総合的に質問する。

- (1) 第11次総合計画の「基本目標4施策20 シティプロモーションの推進と移住・関係人口の拡大」の中の主な取り組みについて、今後の具体的な計画を聞く。
 - (イ) 観光ルート・ネットワークの構築とは何か。
 - (ロ) シーサイドマルシェ「等」の特産品のPRイベントとあるが、シーサイドマルシェの他に何かあるのか。
 - (ハ) 県や近隣市町と連携した観光プロモーション等の推進とは何か。
- (2) 4月に時津町が整備した鯖くさらかし岩への散策路にはハート型アーチがあり、写真をSNSに投稿したくなる工夫がされている。令和3年3月の一般質問で提案したが、改めて本町も、潮井崎公園や板の浦公園、和三郎公園、琴ノ尾岳などのせっかくの風光明媚な既存スポットに、もっと人が訪れる工夫を考えるべきではないか。

- (3) 埼玉県北本市では「市民提案型ふるさと納税クラウドファンディング」によってシティプロモーションや公益に資する事業を支援している。本町もふるさと納税にシビックプライド形成や関係人口創出の観点を取り入れるべきと考えるがどうか。
- (4) 福岡県筑前町立の「大刀洗平和記念館」に博多湾から戦後51年を経て引き揚げられた九七式戦闘機が展示されており、歴史の証人たるその姿は来館者の心を打つものとなっている。平成8年発行の「長与町郷土誌」(下巻)に、昭和20年7月に馬込沖で戦闘機が撃墜されたとあるが、これが事実であるか大村湾海底を調査し、現存するのであれば貴重な戦争資料として引き揚げ・展示することも考えてはどうか。